

## 2 施策の柱ごとの推進状況

### 施策の柱1 学ぶ意欲と、新たな時代を創造的に生きる力の育成

#### 【目標とする姿】

- (1) 児童生徒が、学ぶ意欲、基礎的な学力、豊かな創造性などを身に付け、自分のよさに自信をもって学習や生活をしています。
- (2) 児童生徒が、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、読解力、情報モラル、情報活用能力を身に付けています。
- (3) 児童生徒が、働くことの尊さを理解し、望ましい勤労観を身に付け、将来への夢と希望をもって意欲的に生活しています。

施策展開の方向性	指標名	【基準年】		【目標年次】
		平16年度の状況	平18年度の状況	平22年度の状況
施策の主な指標	(1) 一人一人に応じた学習指導の推進	[国語] ・ 80%以上… 57.5% ・ 50%未満… 5.3% [数学] ・ 80%以上… 68.2% ・ 50%未満… 11.9% [英語] ・ 80%以上… 44.7% ・ 50%未満… 21.0%	[国語] ・ 80%以上… 55.4%▼ ・ 50%未満… 4.8%△ [数学] ・ 80%以上… 66.2%▼ ・ 50%未満… 13.7%▼ [英語] ・ 80%以上… 45.7%△ ・ 50%未満… 22.0%▼	[国語] ・ 80%以上… 72% ・ 50%未満… 4% [数学] ・ 80%以上… 80% ・ 50%未満… 9% [英語] ・ 80%以上… 56% ・ 50%未満… 15%
	(2) 新たな時代への対応力の育成	23校/59校	26校/59校△	68校/68校
	(3) 将来への希望を育む指導の展開	社会体験学習に参加した生徒の満足度（参加後「機会があればまたやりたい」と回答した割合）	83.1%	83.5%△

「平18年度の状況」の、△は指標の達成状況が良好なもの、▼は十分でないもの。ただし、指標データの基となる調査が異なる場合は、達成状況の評価をしていない。また、現在の宇都宮地域のみデータである。

※ 施策の柱7まで同様

重点施策・事業	1 学習内容定着度調査の実施と活用
	2 少人数指導・習熟度別学習の推進
	3 コミュニケーション力を高める学習活動の充実

主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語活動を継続的に実施している小学校数が増加するなど、国際化の進展への対応が進められている。</li> <li>社会体験学習に参加した生徒の満足度は増加しており、多様な勤労体験活動などの効果が表れている。</li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習内容定着度調査」の結果全体を見ると、正答率が8割を超える児童生徒の割合は増加傾向にあるが、5割に達しない割合は横ばいである。また、指標となっている中学校3年生においても、基礎学力の定着が十分とは言えない状況であり、学習指導のより一層の充実を図るため、各学校における効果的な学力向上の方策などを全校に広めるとともに、家庭と連携した取組を充実していく必要がある。</li> <li>パソコンや携帯電話の普及により、情報モラル教育の充実が必要になってきている。</li> <li>将来を生きる児童生徒に必要な能力・態度を育成するため、キャリア教育を小・中学校において推進する必要がある。</li> </ul>

1 学習内容定着度調査の実施と活用

[所管課 学校教育課]

プラン上の位置付け	施策の柱	学ぶ意欲と、新たな時代を創造的に生きる力の育成
	施策展開の方向性	一人一人に応じた学習指導の推進
目的	児童生徒が基礎的な学習内容を確実に身に付けられるよう「学習内容定着度調査」及び「学習と生活についてのアンケート（意識調査）」を実施し、本市全体の傾向と課題を明らかにして、各学校における指導の工夫・改善を図る。	
手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市の小学校3年生から中学校3年生全員を対象に、小学校では国語、算数、中学校では国語、数学、英語を実施教科として「学習内容定着度調査」を実施する。</li> <li>本市の全児童生徒を対象に「学習と生活についてのアンケート（意識調査）」を実施する。</li> </ul>	

スケジュール	年度	平18	平19	平20	平21	平22
	予定	→				
		平18年度から「学習と生活についてのアンケート」新規実施				
		平18年度までに調査結果に基づく指導資料を作成し、以後活用				

前年度の取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 中学校用指導資料を作成し、全小・中学校に配付 <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校における定着の不十分な内容について指導の工夫・改善の方策を提示した教師用資料</li> </ul> </li> <li>◇ 「学習内容定着度調査」、「学習と生活についてのアンケート（意識調査）」の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>調査の実施と調査結果等とまとめた報告書の作成・配付</li> <li>市のホームページへの掲載等による報告書の公表</li> </ul> </li> </ul>
◇教育委員会の取組	◆ 小学校用指導資料（平成17年度作成）を活用した指導の工夫・改善
◆学校の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 小学3年～6年における定着の不十分な内容について、指導の工夫・改善の方策を示した教師用指導資料を活用した授業等の充実</li> <li>◆ 「学習内容定着度調査」、「学習と生活についてのアンケート（意識調査）」の調査結果と指導の工夫・改善策の検討と公表 <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の実態に応じた指導の工夫・改善策の検討と実践</li> <li>習熟度別学習などによる一人一人に応じた指導の充実</li> <li>学校のHPへの、調査結果と指導の工夫・改善策の掲載</li> <li>保護者会での説明や学校だよりなどへの掲載</li> </ul> </li> </ul>

今後の方向性	○拡充    ●継続    ○縮小    ○廃止    ○終了
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習内容定着度調査」及び「学習と生活についてのアンケート（意識調査）」は、児童生徒の学習状況や経年比較による分析などを踏まえた指導の工夫・改善が図られ、学力向上に効果的な方策である。</li> <li>⇒ 二つの調査結果に見られる関連などを明らかにし、各学校の効果的な指導の工夫・改善策を広めるとともに、家庭との連携を強化しながら学習指導のより一層の充実を図っていく。</li> </ul>

2 少人数指導・習熟度別学習の推進

[所管課 学校教育課]

プラン上の位置付け	施策の柱	学ぶ意欲と、新たな時代を創造的に生きる力の育成
	施策展開の方向性	一人一人に応じた学習指導の推進
目的	児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導ができるよう、指導助手等を有効に活用した「習熟度別学習」や「少人数指導」、「チーム・ティーチング」などを効果的に取り入れ、指導の充実を図る。	
手段	・ 小学校5・6年生の国語・算数、中学校1～3年生の数学・英語で習熟度別学習を実施する。	

スケジュール	年度	平18	平19	平20	平21	平22
	予定					→

前年度の取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 各学校への指導助手の配置                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校10名、中学校37名を配置し、県からの少人数加配と併せて、習熟度別学習を実施</li> </ul> </li> <li>◇ 指導助手への研修会の開催                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年2回開催</li> <li>・ 指導助手の指導力の向上</li> </ul> </li> </ul>
◇教育委員会の取組	
◆学校の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 学習内容に応じた多様な学習形態の展開                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1学級を2グループ、2学級を3グループに分けるなど、少人数の学習集団の編成</li> <li>・ 理解の程度に応じた学習集団における、きめ細かな指導の展開（補充的な学習や発展的な学習などの工夫）</li> <li>・ チーム・ティーチングによる、分かる授業の展開</li> </ul> </li> </ul>

今後の方向性	●拡充    ○継続    ○縮小    ○廃止    ○終了
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 習熟度別学習は、補充的な学習や発展的な学習により、基礎学力や応用力を身に付けることができるなど、児童生徒のより一層の学力の向上に有効である。</li> </ul> <p>⇒ 今年度は、習熟度別学習の充実に加え、研究学校（中学校1校）において、放課後などの授業以外における一人一人に応じた学習支援の充実を図り、成果を全校に広めていく。</p>

3 コミュニケーション力を高める学習活動の充実

[所管課 学校教育課]

プラン上の位置付け	施策の柱	学ぶ意欲と、新たな時代を創造的に生きる力の育成
	施策展開の方向性	新たな時代への対応力の育成
目的	各教科等の授業において、自他の意思や感情を伝えたり受け止めたりする話し合い活動を重視するとともに、小学校においては「会話科」の研究成果を活用するなどしながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	
手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科等の授業において、人の話を聞き自分の意見を述べる活動を多く取り入れる。</li> <li>「会話科」の研究成果を広めるため、「いきいき学校研究推進校実践記録集」を作成し配付する。</li> </ul>	

スケジュール	年度	平18	平19	平20	平21	平22
	予定	→				

前年度の取組の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 学校訪問における指導・助言 <ul style="list-style-type: none"> <li>総合訪問の指導部会、要請訪問の授業研究会での指導・助言</li> <li>自他の意思や気持ちを伝え合う活動を重視した授業づくりへの支援</li> </ul> </li> <li>◇ 「いきいき学校研究推進校」指定と実践記録集の配付 <ul style="list-style-type: none"> <li>会話科の研究学校（清原北小・城山西小）における取組の紹介</li> </ul> </li> <li>◇ A L T（外国語指導助手）の派遣 <ul style="list-style-type: none"> <li>12名のA L Tを、各中学校に6か月～1年間の長期派遣</li> <li>小学校の英語活動へのA L Tの派遣（1校あたり平均7回）</li> </ul> </li> </ul>
◇教育委員会の取組	
◆学校の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 各教科等の授業における話し合い活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の意見や考えを大切にしたい学び合い</li> <li>よりよい学校生活に向けた話し合い活動</li> </ul> </li> <li>◆ A L T（外国語指導助手）の活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校での英語授業における実践的コミュニケーション力の育成</li> <li>小学校での総合的な学習の時間における英語活動への参加</li> <li>児童生徒の国際感覚の育成</li> </ul> </li> </ul>

今後の方向性	○拡充 ●継続 ○縮小 ○廃止 ○終了
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他の考えを伝え合う話し合い活動やA L T（外国語指導助手）の派遣は、コミュニケーション力の育成や国際理解の推進のために不可欠である。</li> <li>⇒ A L T（外国語指導助手）や地域人材の協力を得た、コミュニケーション力のより一層の育成に努めていく。</li> </ul>